

多文化共生事業事例集

年度

30

団体名

(公財) 浜松国際交流協会

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額

2,123 千円

教育・子ども

事業名

当事者の視点を生かした外国人就学前の子育て支援

特徴

駐日ブラジル大使館や在浜松ブラジル総領事館、ブラジルで大人気のマンガ「Turma da Mônica」の制作会社、ブラジル人ママの会などとの連携による事業

事業のポイント

◇ブラジル人託児所の経営者を対象に、保育環境の充実を目的とした会議を行う。

◇浜松の認可保育園における取組紹介動画を作成し、託児所経営者や保護者に日本の保育園の施設や保育について関心を高める。

◇ブラジル人保護者にはペアレント・トレーニングや幼児教育についての話を専門家から聞くほか、日本人の子育て方法についてのマンガを作成して配布する。

事業の背景・目的

◇ブラジル人経営の託児所から日本の小学校へ入学する外国人の子どもについては、日本語力だけでなく、着替えなどの生活習慣の自立や集団行動への適応などの課題が挙げられていた。

◇この事業の目的は、ブラジル人託児所の保育環境の充実と保護者の意識向上である。それにより、外国人の子どもが乳幼児期に適切な保育や教育を受け、自信を持ってスムーズに日本の小学校に適應できることを目指す。

事業の概要

平成 29 年度	外国にルーツを持つ就学前の子どもと保護者の子育て支援についての調査（意識調査）
平成 30 年度	当事者の視点を生かした外国人就学前の子育て支援（動機づけの研修）
平成 31 年度	当事者の視点を生かした外国人就学前の子育て支援（具体的な研修）

■ブラジル人託児所会議（全4回）

- ・参加者：市内3つの託児所、駐日ブラジル大使館、在浜松ブラジル総領事館
- ・オブザーバー：浜松市教育委員会、浜松市国際課、子育て支援課、幼児教育専門家（聖隷クリストファー大学教員）
- ・合 計：13名
- ・テーマ：「幼児の発達と課題について」「浜松市立小中学校に在籍している外国人の子どもたちの状況と課題」「ブラジル人託児所から認可保育園への事例」「子どもの発達を支える環境について」

■日本の保育園の取り組み例の紹介～浜松の認可保育園を参考に～ DVD「しんえい保育園」「マーガレット保育園」各15分程度

■ブラジル人託児所に通う保護者への乳幼児教育についての講話、子どもへのストーリーテリング

- ・11月3日（託児所レイノ・ダ・アレグリア）、参加者数：20人
- ・12月8日（託児所ラピス・デ・コロ）、参加者数29人
- ・12月23日（託児所ピメンティニャ・キッズ）、参加者数44人

■マンガで学ぶ「日本で就学するまでの準備」冊子作成

A5版 32ページ 1000部（HICE HP上で公開）



ブラジル人託児所経営者会議



子どもへのストーリーテリング

事業実施における工夫点・事業の成果等

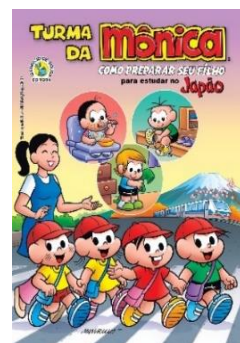
◇ブラジル人託児所経営者会議では、駐日ブラジル大使館、在浜松ブラジル総領事館に参加してもらうことで、託児所経営者の参加へのモチベーションを上げることができた。また、オブザーバーとして大学の専門家、浜松市教育委員会、浜松市幼児教育保育課、浜松市国際課の担当者に参加してもらい、外国人託児所の課題を知ってもらう工夫をした。

◇託児所側から発達障害等の発見や早めの対応に課題があるとの意見が出たことで、総領事館が各託児所へブラジル人心理士の派遣を7月から開始することになり、素早い対応につながった。

◇託児所経営者会議からは様々な課題が挙げられ、託児所が主体的に取り組む意欲が高まった。

◇保護者からは子育てについてのセミナーを聴くことは初めてで、非常に参考になったとの声が多かった。子どもとの関わりについて、仕事が忙しくても改めて考えるきっかけをつくることができた。

ブラジルの国民的マンガ「Turma da Mônica」の制作会社の協力を得て、「日本で就学するまでの準備」についてマンガ絵本を作成。有名なマンガ家に協力してもらうことで、関心度を高めることができた。



今後の課題・将来に向けての展望等

◇乳幼児期の子どもの教育や保育が子どもの将来へ与える影響は大きく、在住外国人の保育・教育の質を確保することは大変重要である。しかし、待機児童の問題により希望の保育園に入ることが難しいという現状の中、ブラジル人託児所は親の労働時間に合わせて子どもを預かり、送迎サービスも充実していること、親子双方にとって言葉の壁がないこと、いじめに対する懸念がないことなどから、ブラジル人保護者のニーズは当面継続すると考えられる。しかし、託児所の経営が厳しいこともあり、専門人材や設備の不足、環境未整備などにより保育の質には大きな課題がある。こうした中で保育の充実を図ることが重要であるので、今後も託児所や専門家と連携を取っていきたい。

◇保護者の幼児教育についての意識向上も重要であるが、問題を抱えた子どもの保護者は経済面や夫婦関係、仕事上でも問題があることが多く、子どもに関心を持つ余裕がなく、託児所側も保護者との関係づくりにてこずっている。今後は専門家と保護者をつなぐ機会を作っていきたい。



ブラジル人保護者を対象としたイベント

事業担当者のふりかえり

- ⇒ この事業は当事者である託児所経営者と保護者のニーズを大切にしながら行ったため、正直にたくさんの意見交換ができた。教育についてはそれぞれの保護者の文化や価値観の違いもあり、日本の学校にスムーズに適應するためには、やはり、乳幼児期が大切だと思った。
- ⇒ 子どもの発達障害などが増加している状況において、乳幼児期に適切な刺激や教育が受けられることが大切であり、今後も子育て支援事業を継続していくことを考えている。